令和５年度　生活科　研究のまとめ

石田　浩子・柳井　裕美

１．研究会等で明らかになった教科等の資質能力の具体

（１）小学校生活科　１年「がっこうたんけん

」

資質能力	児童の姿	手立て	キーワード
授業 構想力	○関わることの楽しさや調べたい場所のよさに気付き，自ら学ぼうとする意欲を高めることができた。	・５月から 12 月の長期にわたって扱い，調べたり伝えたりする活動を繰り返し行った。	・多様な活動や繰り返しが可能となるよう，やわらかな単元構成
	○「たんけんメモ」に，探検した場所で見付けたことや気付いたこと，先生やお兄さん，お姉さんにインタビューして分かったことなどを，絵と言葉で簡単に表現していく姿が見られた。	・「たんけんメモ」を活用した。大きさがワークシートよりも小さいため，かく内容が自然と狭まり，より多くのものや気付きを見付けることができるようにした。	・児童同士の関わりを生む素材や教具を見極める力
授業 実践力	○チームで話し合いながら，「みんなでたのしくしののめ小ツアー」で伝えたいことをまとめている姿が見られた。	・チームごとに班机にしたり，探検メモやホワイトボードを使ったりしながら活動できるようにした。児童の思いを引き出す言葉がけを行った。	・環境構成に関する技術 ・児童の姿や記述を受け止め，価値づけて返していく技術
	○伝え方を工夫したり，伝えることで喜びを感じたり，新たな気付きが生まれたりする姿が見られた。	・クラスの友達や２年２組の児童，保護者などに，調べたことを伝えていく経験を繰り返し行った。	・異学年や保護者などと繰り返し交流する場の設定
授業 分析・ 評価力	○調べている場所のよさや関わることの楽しさに気付いている姿が見られた。	・児童の思いを受け止め，先生にインタビューに行く機会を２回設定した。	・児童の思いや願いに沿って単元計画を修正する力
	○話し合いながら，「みんなでたのしくしののめ小ツアー」で伝えたいことをまとめている姿が見られた。	・「どうしてこれをつあてようと思うのですか。」「みんなが知って嬉しかったことは何ですか。」などの児童の思いを引き出す言葉がけを行った。	・児童の姿，児童が表現したものなどを通して，授業の次回以降の展開を調整したり，自分自身の児童理解の力を伸ばしたりする力

２．研究についての考察

今年度の研究を通して，生活科本来の魅力に迫るための教師の資質能力を表 1 に示すように，再検討した。なお，下線部は新たに加筆した項目である。

表１　生活科本来の魅力に迫るための教師の資質能力

資質能力	生活科が考える「教師の資質能力」の具体
授業構想力	・児童一人一人の経験や関心を踏まえつつ，成長する児童の姿を具体的に想像し，記述する力 ・児童，学校，家庭，地域の実態にあった身近な事象を設定する力 ・多様な活動や繰り返しが可能となるよう，やわらかな単元構成 ・児童同士の関わりを生む素材や教具を見極める力 ・異学年と繰り返し交流する場の設定　・交流しやすい場所を見極める力
授業実践力	・環境構成（板書等を含む）に関する技術 ・直接的な関わりとしての話し方や言葉かけ，表情に関する技術 ・児童の姿や記述を受け止め，価値づけて返していく技術 ・共通素材との出会いの場の工夫 ・遊び方に着目できるような導入の工夫 ・多様な人々と遊ぶ場の設定 ・異学年や保護者などと繰り返し交流する場の設定
授業分析・評価力	・児童の姿，児童が表現したものなどを通して，授業の次回以降の展開を調整したり，自分自身の児童理解の力を伸ばしたりする力 ・児童の思いや願いに沿って単元計画を修正する力

成果	課題
・教師の資質能力について，昨年度まで研究をしていた「遊びを創り出す活動」を中心とした単元と今年度研究した「学校生活に関わる活動」を中心とした単元とを比較し，再検討できた。 ・異学年（２年２組）の児童と繰り返し関わることで，調べたことを相手により分かりやすく伝える方法（話し方や絵の描き方等）を知るとともに，１年１組の児童は自分の成長を，２年２組の児童は下学年である１年１組の児童の成長を実感することができていた。 ・調べた場所を１つに絞りチームで活動を進めていくことで，追究する楽しさを味わい，自ら学ぼうとする姿が多く見られた。	・逆向き設計論における授業づくりをすることは，生活科では子どもとの思いとのずれが生じたり，教師が設定したゴールイメージに無理に寄せてしまったりする場合があるため，留意することが必要である。 ・「たんけんメモ」を活用して話し合いをすることを通して，招待する人の気持ちを考えながら，「みんなでたのしくしののめ小ツアー」で伝えたいことを選ぶ学習では，児童の実態から招待する人の気持ちまで考えることは難しかった。１年生の秋の段階では，まだ自分の思いが強いことが分かった。そのため，児童の実態に合った目標設定をする必要性が改めて分かった。